

ISLIS 主催 第 57 回生命情報科学シンポジウム

開催日: 2024年3月23・24日(土・日)

会場: 千葉大学「けやき会館」西千葉キャンパス 正門直ぐ左. JR 総武線 西千葉駅
懇親会兼帯津良一会長米寿祝賀会: 土曜夕刻 和処居 正門出て真直ぐ 5分 左角2階

<大会長・理事長講演>

ホリスティック医学・不思議の科学・
世界一の「潜在能力科学研究所」・
「いやしのビル」への始動の年

(The year starting to a Large-Scale “*Human Potential Science Institute*” and
“*Healing Hall*” for Holistic Medicine and Wander Science)

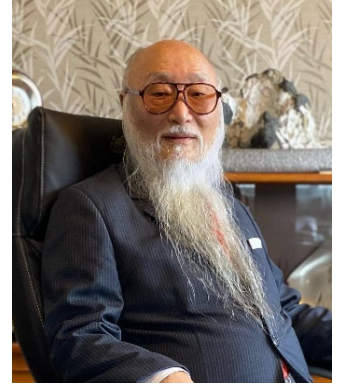
山本 幹男 博士(医学), 博士(工学)

(Mikio YAMAMOTO, Ph.D., Ph.D.)

国際生命情報科学会 (ISLIS) 理事長・編集委員長,

国際総合研究機構 (愛理 IRI, アイリ), 科学平和文化財団 (SPC-F) 理事長,

「潜在能力科学研究所」創立責任者, 「いやしのビル」企画委員長 (千葉, 日本)



要旨: 「ホリスティック医学と不思議の科学 IV」を主テーマとし2024年3月23/24日(土日)に第57回生命情報科学シンポジウムを 主催 国際生命情報科学会 (ISLIS, イスリス, 帯津良一 会長), 共催 国際総合研究機構 (愛理 IRI, アイリ), 科学平和文化財団 (SPC-F) で, 千葉大学 西千葉キャンパス けやき会館にて開催する. 千葉大学関係者のご協力に感謝する. 次回の第58回シンポは2024年8月2-5日(金-月) 山本竜隆朝霞高原診療所 院長が大会長として富士山麓の朝霞高原等の施設で開催する. その次の第59・60回シンポは2025年春夏に ISLIS 創立30周年記念行事として開催予定で大会長など募集中. これらに多くの方の講演・発表・実技披露等の参加を望む. ISLISは, その兄弟組織でこの分野の幾多の研究成果を挙げてきた IRIと共に, IRI-「潜在能力科学研究所」を創設し大型「いやしのビル」を建設し, ホリスティック医学を含むこの分野の世界一の拠点に育てたい. 企画, 構想, 連携や2024年中に100名の人財を公募中で, 良い研究者や多方面の人材の推薦等で皆様のご協力を得たい. このために現本部にスペースを既に借増し, 小型ビルの建築確認済証も発行され, 超大型ビルを含む大型ビル3棟の企画設計もまとまった. ISLISの設立趣意は, 物質中心の科学技術から, ところや精神を含んだ21世紀の科学技術へのパラダイム・シフト (枠組革新) を通じ, 真理の追究と共に, 人間の「潜在能力」の開花により, 健康, 福祉, 教育と社会および個人の幸福や心の豊かさを大きく増進させ, 自然と調和した平和な世界創りに寄与する事である. ISLISは1995年の創立来28年半, 現在の科学知識の延長で説明が出来そうも無い不思議なところや精神を含んだスピリチュアル・ヒーリング, 気功, 潜在能力, 超心理現象などの存在の科学的実証とその原理の解明を追求して来た. この間に生命情報科学シンポジウムを, 海外での開催や15回の合宿形式を含め57回主催し, 英文と和訳付の国際学会誌 *Journal of International Society of Life Information Science* (J.Intl.Soc.Life Info.Sci. or *Journal of ISLIS*) を年2号刊行し, 総計7,000頁以上の学術論文と発表を掲載してきた. この間に, 不思議現象の存在の科学的実証には多くの成果を挙げた. しかし, その原理の解明は世界的にもほとんど進んでいない. これに大いに挑戦したい. 本学会は現在, 世界の11カ所に情報センターを, 15カ国以上に会員を, 擁している.

キーワード: ホリスティック医学, 国際生命情報科学会, ISLIS, イスリス, 生命情報科学, 潜在能力科学, 国際総合研究機構, 愛理 IRI, アイリ, 科学平和文化財団, SPC-F, 科学, 精神, 脳, 心身, 代替医療, CAM, 統合医療, IM, 予防医学, 未病, 精神神経免疫, スピリチュアル, ヒーリング, 気功, ヨーガ, 瞑想, 潜在能力, 催眠, 心, 不思議, パラダイムシフト, 世界像, 世界観, 超常現象, 超心理, 超能力, 平和, 幸福

<会長講演>

目指すは生と死の統合社会

帯津 良一 国際生命情報科学会 (ISLIS) 会長
日本ホリスティック医学協会名誉会長
帯津三敬病院 名誉院長(埼玉、日本)



要旨: 医療が戦いの最前線なら医学は最前線に武器や弾薬を届ける兵站部。

医学を統べるのが科学の知なら医療を統べるのは臨床の知。現場はあくまでも医療である。だから治したり癒したりは方便にすぎず、医療の本質は患者と治療者が寄り添い合うことである。体で寄り添い、心で寄り添い、命で寄り添うのである。しかも命で寄り添うためには死後の世界をしっかりと視野の中に入れなければならない。つまりあの世とこの世を統合して初めて人間まるごとなのである。生きとし生ける者すべてが生と死を統合した社会こそ本来の地球であり、ホリスティック医学の究極である。

キーワード: 最前線、臨床の知、命に寄り添う、生と死の統合

連絡先: 帯津 良一 医療法人直心会 帯津三敬病院 名誉理事長 〒350-0021 埼玉県川越市大字大中居 545 番 Tel: 049-235-1981

<副会長講演>

さまざまな状況下での脳波とその解析 —年齢による変化を中心に—

河野 貴美子 国際生命情報科学会 (ISLIS) 副会長
国際総合研究機構(IRI) 生体計測研究所 (日本、千葉)

要旨: 脳波は一般的に α 波の名称ばかりが先行し、 α 波あつての脳波のように思われていることが多い。しかし単純にリラックスイコール α 波でもなく、 α 波が大きいことが良い状態というわけでもない。状況により、人により出方はいろいろであるのはいまさら言うまでもない。特に乳幼児期は成長につれ脳波は大きく変化する。成人期は、基本的脳波に年齢による大きな変化は見られないものの、状況により、思考活動により様々な違いが変化として現れ、個人差も大きく現れることになる。今回 100 歳を超える高齢者の計測から、高齢期における基本的な変化を検討するとともに、以前計測した乳幼児期から学童期に至る変化を追い、脳神経細胞の活動と脳波の現れ方について改めて考察する。

キーワード: α 波、 θ 波、 β 波、周波数、高齢者、乳幼児、神経回路

著者連絡先: 263-0051 千葉市稲毛区園生町 1108-2 ユウキビル 40A 電話 043-255-5481 電子メール: kawano@a-iri.org

<特別講演>

がん光免疫療法の創生

田村 裕
千葉大学 医学部 生命情報科学 (日本、千葉)



要旨: “がん免疫療法”は、William B. Coley (1890 年頃) による「丹毒菌 ; Coley's Toxin」を用いた免疫賦活療法を源泉としている。その後、Frank M. Burnet (1960 年頃) により「がんの免疫監視機構」が提唱され、免疫系によるがんの認識と排除に大きな期待が寄せられたが、有効な治療成績を得るには至らなかった。

ところが、Gavin P. Dunn (2000 年頃) によって「がん免疫編集機構」の存在が示されると共に、本庶佑 (京大) らによる T 細胞性免疫の機能抑制に関わる「免疫チェックポイント阻害剤」の開発を受けて“がん免疫療法”は、実臨床において顕著な効果を示し、現在、さらなる治療効果の向上を目指して、分子標的薬・化学療法・放射線照射療法などとの併用が模索されている。我々 (千葉大学医学部生命情報科学) は、がん微小環境に於ける免疫抑制機構を至適に調整することによって、細胞障害性 T 細胞 (CTL) の抗腫瘍免疫応答を賦活させることが可能な“がん光免疫療法”を創生し、その有用性を検討したので、得られた結果を報告する。

また、ラジオ波・低周波治療器等を用いた非侵襲性医療に関する取り組みに関しても、併せて報告する。

キーワード：がん免疫療法、がん光免疫治療、非侵襲性医療

連絡先：田村 裕, 260-8670 千葉市中央区亥鼻 1-8-1 千葉大学医学部生命情報科学

電話 043-226-2544, E-mail: yutaka_tamura@faculty.chiba-u.jp

〈次回大会長講演〉

第 58 回生命情報科学シンポジウム 2024. 8. 2-5 於 富士山麓(大会長関連施設)

「富士山麓のリトリートで命の循環を体験・体感する」

ーフェーズフリーのホリスティック医学とはー



富士山麓における WELLNESS UNION の活動

～ISLIS2024 年 8 月合宿の魅力とエリア紹介～

山本 竜隆

ISLIS 第 58 回生命情報科学シンポジウム 大会長・国際生命情報科学会 (ISLIS) 理事,
朝霧高原診療所 院長、WELLNESS UNION (日月倶楽部・富士山静養園) 代表 (日本, 静岡),
昭和大学医学部 客員教授, 日本ホリスティック医学協会 副会長

要旨： 伝統ある国際生命情報科学会 (ISLIS) 主催の第 58 回生命情報科学シンポジウムの大会長を拝命し、2024 年 8 月 2-5 日(金-月)に、主テーマ「富士山麓のリトリートで命の循環を体験・体感する」ーフェーズフリーのホリスティック医学とはーで、私を中心に設立し育てた下記施設にて合宿形式で開催する。多くの方のご講演、発表、セミナー、実技披露などご参加を期待している。私は、富士山麓の朝霧高原において、日月倶楽部・富士山静養園・朝霧高原診療所の 3 施設を柱に活動している。そこで、WELLNESS UNION の設立背景、この施設の沿革、活動内容、施設、今後の展開について、報告する。下医は病気を治し、中医は人を治し、上医は社会を治す」という言葉に感銘を受け、医療からのアプローチで、小さな地域社会の安心安全、自然環境を活かした地域づくりを目指している。近年では、リトリートという言葉も広く使用されるようになったが、平時の癒しのみならず、有事の避難所としての”場”があってこそ本当のリトリートであり、社会医学や公衆衛生などの観点でも、今後の日本においては重要な視点ではないかと考えている。また、これらの活動自体が、広義の統合医療やホリスティック医学に繋がると考えて、農業などとも連携した取り組みを進めている。

キーワード： リトリート、広義の統合医療、ホリスティック医学、富士山、朝霧高原

連絡法： Tatsu196691@piano.ocn.ne.jp

〈講演〉

ピラミッドパワーの科学的研究 (2007 年 10 月～2024 年 3 月) (Scientific Research on Pyramid Power: Studies from October 2007 to March 2024)

高木 治¹, 坂本 政道², 河野 貴美子¹, 山本 幹男¹

¹ 国際総合研究機構(IRI) (日本、千葉)

² (株)アクアヴィジョン・アカデミー (日本、千葉)

要旨：我々は 2007 年 10 月以来、ピラミッド型構造物(pyramidal structure: PS)の未知なるパワー (ピラミッドパワー) を実証するため、厳密に科学的な実験を続けている。実験ではバイオセンサ (キュウリ切片) を、PS 頂点とそこから 8m 離れた較正基準点 (コントロール) に 30 分間置き、その後バイオセンサを密閉容器に移し、容器内で放出した揮発成分 (ガス濃度) を測定した。我々は現在まで、主に以下に示す 2 種類の実験を行なった。I) 「ピラミッドパワー実験 (PP 実験)」: PP 実験は、PS 自体が潜在的に持っている、いわゆるピラミッドパワーを検出する。II) 「瞑想実験」: 瞑想実験は、バイオセンサを PS 頂点に置いている間、被験者が PS 内に入り瞑想を行った。また瞑想中と比較するため、瞑想前と瞑想後の時間帯に、PS 頂点にバイオセンサを置いて実験を行った。本講演は主に II)の瞑想実験の結果について報告する。我々が瞑想実験によって実証した内容は、主に次の 4 点である。(1)PS 内で被験者が瞑想中と、瞑想後を比較した結果、生体センサに与えるピラミッド効果が異なった($p=3.13 \times 10^{-10}$)。(2) PS 内で被験者が瞑想した影響は 20 日間程度残り、瞑想後 20 日以降、ピラミッド

ド効果が検出できなくなった。(3)PSの有無、瞑想の有無の組合せは4通りあり、それぞれ実験を行った。その結果、ピラミッド効果の発生要件が明らかになり、PS内で被験者が瞑想した時にのみ、ピラミッド効果が有意に検出された。(4)瞑想前実験は、被験者が実験室から6km以上離れた自宅に居る時に行った。瞑想前日の実験と、瞑想の数時間前の実験を比較した結果、瞑想前日のピラミッド効果は誤差の範囲でゼロとなったが、瞑想数時間前のピラミッド効果は有意な値となった。これまでの実験結果より、我々はPSが人間から発する未知エネルギーを変換する、エネルギー変換装置であると結論した。ピラミッドパワーに関する研究は、未だアカデミズムの世界では異端と見做されることが多い中、我々の実験結果は、この分野において世界初の研究成果である。今後この成果が一般に広く認められ、科学における新たな研究分野となり、幅広い応用の可能性が期待される。

キーワード：ピラミッド、潜在力、瞑想、バイオセンサ、キュウリ、ガス、サイ指数

代表著者連絡先：〒263-0051 千葉県市稲毛区園生町 1108-2 ユウキビル 4FA 電話 043-255-5482 電子メール：takagi@a-iri.org

参考文献

Takagi, O., Sakamoto, M., Yoichi, H., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2020) Scientific Elucidation of Pyramid Power: I. Journal of International Society of Life Information Science, 38, 130-145. https://doi.org/10.18936/islis.38.2_130

<研究発表>

バイオセンサから放出されたガス濃度の日内変動の特性 (Characteristics of the diurnal variation of gas concentrations emitted from biosensors)

高木 治¹, 坂本 政道², 河野 貴美子¹, 山本 幹男¹

¹ 国際総合研究機構(IRI) (日本, 千葉)

² ㈱アクアヴィジョン・アカデミー (日本, 千葉)

要旨：我々はピラミッド型構造物(pyramidal structure: PS)の未知なるパワー (ピラミッドパワー) の研究を、2007年10月から続けている。そしてバイオセンサ (食用キュウリ切片) を使用した厳密に科学的な実験によってピラミッドパワーの存在を実証してきた。また、バイオセンサから放出されたガス濃度の解析によって、バイオセンサの特性を明らかにしてきた。その結果、バイオセンサから放出されたガス濃度の概日リズムが季節によって変化することを明らかにした。つまり概日リズムの一周期が冬では8時間、春では6時間、夏では24時間、秋では12時間と24時間の混合リズムであることが判明した。また、1周期が24時間の概日リズムをもつ夏と秋で、周期のピーク位置が4時間程度ずれていた。このことから、概日リズムの周期は同じであっても季節が変化するとピーク位置 (位相) が変化することが判明した。さらに我々は、年間データ (n=468) からキュウリを切断した時刻とガス濃度の関係を解析した。その結果、年間を通してガス生成反応の強度が切断時刻によって異なることが判明した。つまり、ガス生成反応は午後3時頃に特に活発となり、午前2時頃に反応は抑制されていた。このことから、我々は以下の3点を推測した。1. 植物であるキュウリ間のコミュニケーションが、午後3時頃に活発化し、虫などの外敵に備え、免疫反応を活性化させている可能性があること。2. 午前2時頃は、キュウリが植物間コミュニケーションをとる必要のない時間帯であること。3. 午前2時頃から午前6時頃にかけて、日の出を迎えるにあたって、キュウリの生体反応の活性化が起こっている可能性があること。

キーワード：バイオセンサ、キュウリ、概日リズム、ガス

代表著者連絡先：〒263-0051 千葉県市稲毛区園生町 1108-2 ユウキビル 4FA 電話 043-255-5482 電子メール：takagi@a-iri.org

参考文献

[1] Takagi, O., Sakamoto, M., Yoichi, H., Kokubo, H., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2018) Discovery of Seasonal Dependence of Bio-Reaction Rhythm with Cucumbers. International Journal of Science and Research Methodology, 9, 163-175. <https://www.researchgate.net/publication/331917254>

[2] Takagi, O., Sakamoto, M., Yoichi, H., Kokubo, H., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2018) Relationship between Gas Concentration Emitted from Cut Cucumber Cross Sections and Growth Axis. International Journal of Science and Research Methodology, 9, 153-167. <https://www.researchgate.net/publication/331917255>

[3] Takagi, O., Sakamoto, M., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2022) Seasonal Changes in the Circadian Rhythm of Gas Released from Harvested Cucumbers. Natural Science, 14, 503-516. <https://doi.org/10.4236/ns.2022.1411045>

[4] Takagi, O., Sakamoto, M., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2023) Potential Power of the Pyramidal Structure VIII: Exploration of Periodic Diurnal Oscillation of Pyramid Power and Bio-Entanglement. Natural Science, 15, 179-189. <https://doi.org/10.4236/ns.2023.154013>

<発表>

目指せ、潜在意識による鹿との共生

橋爪 秀一

Idea-Creating Lab (日本、横浜)

要旨: 古くから、日本人は鹿に対して可愛らしい、高貴である等の好印象を持っており、神使或は神獣として崇めてきた。しかし、2022年には年間約57万頭の鹿が害獣として駆除されており、駆除された鹿の大部分は、ゴミとして廃棄されている。我々は鹿との共生を目指すためにも、駆除された鹿を有効資源として利用すべきと考えており、鹿肉、鹿皮や鹿茸の天然資源としての価値を模索している。

今回は、ニュージーランド、台湾、モンゴル、スコットランド、中国及びドイツにおける鹿との付き合い方と鹿の資源としての利用法について報告し、鹿との共生方法について考察したい。日本では、駆除された鹿の資源利用については徐々に増加し、改善されてきている。しかし、鹿との共生方法に関しては、多々試行はしているが、鹿を柵により締め出すこと以外の方法では、優れた効果が認められないのが現状である。その失敗の原因としては、人間同士の協力体制の欠如が挙げられる。鹿との共生を実現するためには、まずは、その地域住民が一致団結した協力体制を図る必要があると考える。更に、我々は銃或いはワナのような過激な手段での鹿との共生ではなく、鹿の潜在意識に基づく平和的な鹿との共生を求めている。その為には、鹿の性質及び習性をよく知る必要がある。将来的には、この平和的な鹿との共生方法を、自然、動物、植物、他国など様々な対象との共生に如何に生かすかも模索していきたい。

キーワード: 鹿、害獣、天然資源、潜在意識、共生

連絡先: 橋爪秀一、〒236-0005 横浜市金沢区並木 3-7-4-1303 電話・Fax. 045-783-2510 E-mail: hashizume.shu@nifty.com

<一般発表>

気とは

野村 明子

有限会社 日吉堂 (日本、京都)

要旨: 東洋医学の視点、現代医学の視点の双方から、気とは何かについて考察したい。東洋医学からは、経絡指圧の創始者である増永静人先生とさらに経絡指圧を現在も発展しておられるタオ指圧の創始者 遠藤嘯及先生が考える気とは何かについて、現代医学からはダニエルキーオン著の「ひらめく経絡」より抜粋し、紹介する。最後に、指圧の作用について量子力学の観点も含めて考察したい。

キーワード: 気、経絡指圧、潜在意識、ホリスティック医学

連絡先: 野村明子 有限会社 日吉堂 京都市東山区紫園町北川 347 E-mail: turip.akn@icloud.com

<一般発表>

現代への処方箋 スピリチュアリティとワンネス思想

叶 礼美

(Kanai Remi)

非営利型一般社団法人 国際生命意識協会 代表理事

カリフォルニア州政府認可スクール・オブ・スピリチュアリズム ワンネスインスティテュート 代表

要旨: 物質的な価値至上主義から、生命優先の価値観へのシフト: 現代のさまざまな問題の根本原因はどこにあるのでしょうか。私は「生命より物質的価値を優先させること」と考えます。教育、食糧、農業、商業、工業、医療、科学、環境、経済、政治のあらゆる分野で、生命よりも経済的利益を追求するあまり第一に守られるべき生命が犠牲になっています。物質的価値至上主義がひきおこしている弊害ならば、解決の道は生命を第一の価値とすることにあるのではないのでしょうか。つまり物質的価値へと傾きすぎた世界から、生命第一の価値観へシフトしていくことです。

スピリチュアリティとは: わたしたち人類の本質は霊魂であり、超物質的(物質を超えた=メタフィジカル)です。霊魂が地上で肉体に宿り人としての生を生きています。人の肉体には寿命という制限があり、その死を

もって終わります。それゆえ地上での生は一時的で、霊魂にもどり天上に存在し続ける生は、永遠であり不滅ということになります。人はそのように「物質的存在であり意識的存在」「死すべき人間であり不滅の霊魂」というように異なる二つの性質をあわせもつ存在です。これがスピリチュアリティ（霊性）の意味するところ。スピリチュアリティは人間観・死生観を扱い、ミクロ的な視点といえます。

ワンネスとは：それにたいして、ワンネス（一体性）とは宇宙の原理を概念的に説明するものです。一つの源から分かれて創造されたあらゆるものがつながっている。部分は全体を構成しているので、創り出された世界はその総体の意識によって変わりうるということ。上に挙げたミクロ視点のスピリチュアリティに対し、ワンネスは「この世界を生じさせている宇宙の構造（霊的階層世界）全体」ということになり、マクロ的な視点といえます。スピリチュアリティもワンネスも、物質や形を超えた「メタフィジカルな本質」を指します。本質回帰の道に在る我々は、元戻りになるのではなく螺旋をえがいて成長・上昇し、つぎの意識段階へ進化する。混沌とした現代に、明かりがともされるようにひとりふたりと仲間が集まり、進化・統合された人類の新しい時代が拓かれつつあるように思います。そのような活動についてお話いたします。

キーワード： ワンネス、スピリチュアリティ、霊性

連絡法： 国際生命意識協会 office@lifeconsciousness.org

<国際ホリスティック看護協会(IHAN) セッション>

未来のホリスティック医療 ～再生医療の可能性～

矢島 実

アクア鍼灸接骨院 院長（千葉、日本）

要旨： 再生医療の発展により、NMN サプリメントやミトコンドリア活性化などの革新的なアプローチが注目されている。これらの手法は従来の医療を補完し、身体と心の両面からのヒーリングを促進する可能性がある。組織や細胞の再生をサポートすることで、病気や老化に対する総合的なアプローチが実現し、健康な未来を築くための希望を提供する。

キーワード： NMN 再生医療 ミトコンドリア 美容 健康 健康長寿 幹細胞 未病

矢島 実 アクア鍼灸接骨院 aqayaji@yahoo.co.jp

<国際ホリスティック看護協会(IHAN) セッション>

ホリスティック医療と看護の歴史をたどる～

中 ルミ

国際ホリスティック 看護協会 理事長（千葉、日本）

要旨：ホリスティック医療と看護は、古代からの歴史を持つ。古代の医療では、身体だけでなく精神や社会的側面も含めたアプローチが行われていた。19世紀には、フローレンス・ナイチンゲールが看護の近代化とホリスティックなアプローチを提唱し、患者の心身の健康を促進した。現代では、ホリスティック医療と看護は病気の根本原因や患者のライフスタイルにも目を向け、総合的なケアを提供している。

キーワード：ホリスティック看護 ホリスティックアプローチ アロマ ヒーリング レイキ ナイチンゲール 訪問看護 補完代替療法

キーワード： 訪問看護、ホリスティックケア、ルミナスアロマヒーリング、アロマセラピー、レイキ、ヒーリングタッチ

中ルミ：国際ホリスティック 看護協会 npo.ihan@live.jp

<国際ホリスティック看護協会(IHAN) セッション>

ホリスティック医学にも AI により変革の波 ～ 氣を科学する時代へ ～

森嶋 淳友 医師
(Morishima)

表参道ウェルネス統合医療クリニック 院長 (東京、日本)



要旨: ホリスティック医学は伝統医学やエネルギー医学などを含めた体全体をみていく。多くの先人の先生方が西洋医学に取り入れて患者さんに寄り添う治療を行ってきた歴史がある。それゆえに西洋医学的な検査、すなわち古典物理学的な検査では評価が難しくエビデンスがとれないとされてきた。しかし、量子力学を用いた検査、いわゆる周波数を用いた検査機器が最近は多く見られ、私も開業してから 10 年間、ドイツ振動医学バイオレゾナンスのレヨコンプを用いて診療に当たってきた。それを用いることでエビデンスを積み上げ学会発表や論文にすることができている。

周波数機器にて西洋医学の検査ではでてこない原因を突き止め治療することで、西洋医学だけでは治療が難しい状態も治癒することが可能となる。周波数機器では検査だけではなく治療も可能であるのが素晴らしいところである。

最近、その周波数機器にも AI 機能が搭載されたものが出現しており、虹彩情報から経絡のバランスや細胞や臓器の問題がわかり、さらに AI で調整することが可能となる技術がでてきている。さらに、それを応用したもので頸椎 1 番に AI が調整した周波数と音波を与えることで骨格のバランスを整え脳や神経を調整し臓器レベルまで調整する QQT という機器も開発され、まさに周波数だけで治療ができる時代が到来してきている。

そして心電図の波形からフラクタル検査を用いることで、心臓負荷、脳ストレス、ホルモンバランス、自律神経バランス、脳波、経絡、チャクラなどを測定できる機器もでてきており、それらを使うことで氣の状態を把握することが可能となっている。さらに高濃度電子水を用いることで氣の状態を科学できるような時代になってきており、それぞれのデータを供覧しながら未来のホリスティック医学について言及したいと思う。

キーワード: ホリスティック医学、エネルギー医学、バイオレゾナンス、周波数、振動医学、AI

公表連絡先: 森嶋 淳友 morishima@wellness-imclinic.com

<国際ホリスティック看護協会(IHAN) セッション>

ホリスティックケアの体験、訪問看護を通して

木庭 淳子
(Koba)

看護師、ルミナスの和訪問看護ステーション(千葉、日本)

要旨: 私は、長い間看護師として勤務してきた。医学は進んでも治療の副作用や症状に苦しむ患者さんを看て患者さんに癒しのケアを届けたいと思い、退職後アロマセラピーを学んだ。そして、私はアロマセラピーを実践できる職場であり、補完代替療法を積極的に実施している当事務所に就職した。1 年前に長年精神疾患で入退院を繰り返していた利用者さんの担当になった。そう状態で眠れないときにリラックス目的で、また鬱状態で倦怠感を訴える利用者さんに身体症状の緩和としてアロマトリートメントを実施した。しかし、そう鬱状態が短期間(週あるいは日単位)で変化し症状をコントロールできずに苦しむ利用者さんを看て悩み、ヒーリングタッチを取り入れようと思った。私は、利用者さんにケアを提供するために以前学んだヒーリングタッチやレイキをテキストで復習し、レイキ練習会、Zoom での瞑想会にも積極的に参加するようになった。私自身利用者さんのケアをするためと思って参加したレイキ練習会だったが、私自身も心が平安になり、癒されているという体験をした。そして利用者さんにケアを提供する際に不安がなくなり自信をもって利用者さんにケアできるようになった時に利用者さんから、今までのアロマトリートメントだけの時とは違い、看護者の手を暖かく感じ、そう症状があっても眠れるようになり症状が緩和されたとの言葉が聞かれた。この訪問看護での実践を報告する。

キーワード: 訪問看護、ホリスティックケア、ルミナスアロマヒーリング、アロマセラピー、レイキ、ヒーリングタッチ

連絡先: 国際ホリスティック看護協会 npo.ihan@live.jp